

各関係機関の長 殿

鹿児島県病虫害防除所長

平成27年度技術情報第10号（果樹カメムシ類）について（送付）

このことについて、今後の防除指導の参考にしてください。

平成27年度技術情報第10号

- 1 対象害虫 果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）
- 2 対象作物 果樹全般
- 3 発生地域 県本土
- 4 発生量 多（越冬成虫）

5 情報の内容

果樹カメムシ類の予察灯誘殺虫数が多く、一方では、餌となるスギ、ヒノキの球果の着果量が極めて少ないため、球果等の餌が枯渇した場合（台風の落果も含む）は果樹園へ飛来する恐れがある。現在、極早生温州（出水市）、ナシ・ブドウ（薩摩川内市）、カキ（さつま町）等への飛来が確認されている。

6 情報の根拠

- （1）例年7月の誘殺虫数は越冬成虫の寿命に伴い減少するが、本年は多い状況が継続している（表1、図1）。また、前期（4～7月）予察灯誘殺虫数も多い（表2）。
- （2）本年は餌となるスギ・ヒノキ等の着果量が極めて少ない（表3）。予察灯に誘殺されているのは餌を求めて移動している個体と推測される。

7 防除上注意すべき事項

- （1）飛来は地域間差、ほ場間差があるので、園内の発生状況の把握に努め、発生に応じて防除を行う。また、収穫期の近い樹種では特に注意する。
- （2）飛来を認めた場合、一回目の防除は残効の長い合成ピレスロイド系薬剤またはネオニコチノイド系薬剤を選択する。合成ピレスロイド系薬剤は、ミカンハダニの発生を助長するので、散布後の発生に注意する。
- （3）チャバネアオカメムシの飛来が多いほ場では、黄色蛍光灯（波長500～600nm）を集団点灯すると飛来防止効果が高い。
- （4）果実への袋かけや目合い4mmの防虫ネットを被覆することで被害の軽減を図る。

表1 予察灯の誘殺虫数（7月1～25日）

地点名	ツヤアオカメムシ				チャバネアオカメムシ			
	H27 (頭)	H26 (頭)	平年 (頭)	平年比 (倍)	H27 (頭)	H26 (頭)	平年 (頭)	平年比 (倍)
垂水市	118	0	22	5	250	21	72	3
南さつま市	329	32	122	3	1,201	13	117	10
いちき串木野市	359	5	33	11	588	0	20	30
薩摩川内市	357	13	57	6	1,113	9	122	9
出水市	3,813	11	115	33	5,923	9	193	31

* 平年は、垂水市と薩摩川内市が過去10カ年、他は4カ年の平均

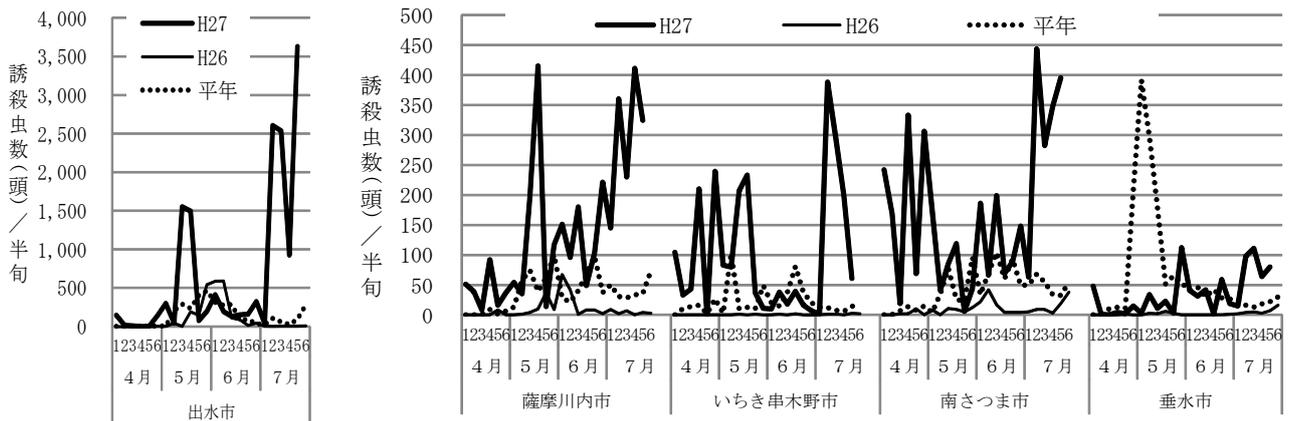


図1 予察灯の誘殺虫数の推移（ツヤアオカメムシとチャバネアオカメムシの合計）

表2 多発年の予察灯前期(4～7月)誘殺虫数の平年比(倍)

平年比	H27	H25	H18	H8
平均	3.5	1.8	4.2	14.3
範囲	(0.5～4.6)	(0.3～2.5)	(2.5～6.7)	(7.1～19.2)

※複数地点の平均及び範囲（H27は7/25現在）

表3 餌植物の着果量

植物名	H27	H26	H25
スギ	極少	少	少
ヒノキ	極少	やや多	やや少

※達観調査（H27:スギ50, ヒノキ53地点）

<参考資料>

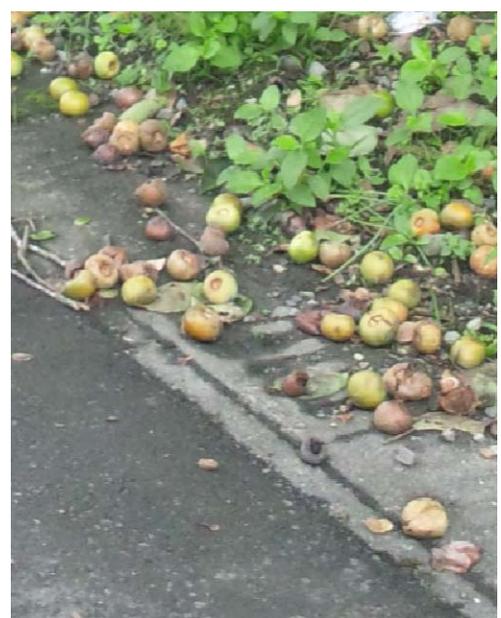
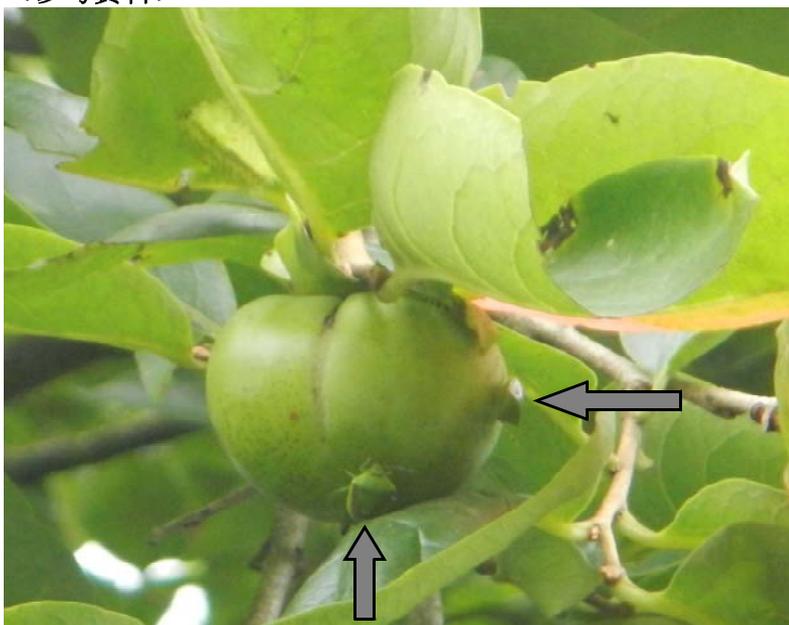


図2 カキに飛来したチャバネアオカメムシ（左）と落果した果実（右）